

編集後記

守尾博編集委員が、8月末に羽田を飛び立つてから、刻々と音信を伝えて来る。日本人離れ(但し欧米人とも離れている?)のした偉大な容軀で、日本の病院人として活躍されている様を想像すると愉快である。アメリカ病院協会総会にも東医務局長と出席して、彼の食糧は益々旺盛であるようで、帰朝後の土産話に大きな期待がかけられる。皆さんと一緒に健闘を祈りましょう。東医務局長も10月20日には帰朝の予定であるので、アメリカ病院協会の盛大な活動の有様についてのお土産話を伺うことが出来ると思うので、12月号を御期待願いたい。

各地の病院協会の動きも、愈々活動期に入ろうとしているので、恐らくその活動に拍車をかけることになるだろう。

昭和24年度の病院分類の判定が、愈々厚生省から通知された。昨年の分類の方法には検討の余地が多かつたが、本年度の分類要領は充分進歩した点が見受けられる。この問題は、日本中の病院人が深い関心を以て、民衆の福祉の為に、近代社会に適応する病院を発達させるよう、協力努力するべきものだろう。決して、医療監視員と病院とが対立するものでなく、医療法を中心として両者が謙虚でなくてはならない。本誌もこの点、病院人にも医療監視員にもお役に立つような、正しい病院のあり方についての資料を編纂するよう努力して行くつもりである。

医薬分業問題は、この秋にあつて、日本の医療史上画

期的な段階に入つて来た。というのは、臨時報酬調査会において進められている論議の空気は、日医新幹部の態度が、従前の幹部の態度と違つて、任意分業の根本的な考え方は一歩も譲らないが、ハタリではなく、任意分業の実を上げようとする常識的なジミな態度を以て終始していることである。任意分業の実を上げるには、何うしても診療報酬の立て方を技術本位にしなければならない。その為には医師の技術を含めて医療費の原価計算が行われなければならない。従つて原価計算が問題になり、偶偶入院料も適正なものが算出されなければならないようになり、医薬分業問題とかけて、病院の原価計算と解くということになりそうだ。如何?

来年度政府予算の政府の方針が定まつた。社会条件の問題と、結核対策で、明年度予算には、病院予算が画期的に増大している。この予算を、適正医療の普及に、適切に配分しなければならぬまい。病院人の関心を要するものと思う。量が増えるばかりでなく、本誌の主張のような、実質が民衆の福祉のなになるような病院を作つて欲しいものである。

先号から掲載の「今後の看護婦はどうなるか」の座談会は、従来看護婦問題は主として、看護婦さん側を中心として論議されておつたが、看護婦さんは病院で働いて貰うのであるから、院長さん方だけでこの問題を論議したならば何ういふ結論が出るかという試みであつた。御参考になる点が多いと思う。(編者)

病院經理の理論と實際	山元昌之	(滋賀大事務局長)	¥450円	¥45円
臨床 ^{医家に必要な} 統計の常識	吉岡博人	(東京女医大教授)	¥70円	¥10円
医学統計の手引	近藤忠雄	(前厚生技官)	¥120円	¥20円
ポケット検査法	學術書院編		¥120円	¥25円
消毒と滅菌	八田定義	(日医大教授)	¥90円	¥10円
優生保護法	谷口彌三郎	(医博)	¥80円	¥10円

総目録贈呈

日本医学雑誌株式会社
株式会社 學術書院

合同

株式医学書院
会社

本社

東京・本郷局私書函第5号 振替96693
電話小石川(85)0741・1201・1470・1773・4078・4079

分室

東京都文京区駒込林町172番地
電話駒込(82)0714・1605